

氏名	山本剛伸
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 3305 号
学位授与の日付	平成19年3月23日
学位授与の要件	医歯学総合研究科病体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	A novel, noninvasive diagnostic probe for hydroa vacciniforme and related disorders Detection of latency-associated Epstein-Barr virus transcripts in the crusts (EBウイルス関連皮膚疾患における痂皮を用いた非侵襲的EBウイルス潜伏感染細胞の証明)
論文審査委員	教授 山田 雅夫 教授 小熊 恵二 助教授 松浦 栄次

#### 学位論文内容の要旨

EBウイルス(EBV)関連疾患の皮疹部におけるEBV感染細胞の証明は皮膚生検が必須であった。しかし小児例が多く、露出部に形成しやすいため施行できない例がある。その背景より、皮疹部におけるEBV潜伏感染細胞の証明を非侵襲的に行う方法を確立した。痂皮よりRNAを抽出し、潜伏感染細胞に恒常的に発現しているEBER1と*Bam*HI A rightward transcripts(BARTs)RNAをRT-PCR法で検出することにより皮疹部における感染細胞の証明を行った。その結果、全例でRNA抽出が可能であった。EBV関連皮膚疾患でEBER1・BARTsRNAが検出され、感度・特異度において非常に優れていることが判明した。非侵襲的検査であることが最大の利点で、EBV関連皮膚疾患を考えた場合に最初に行う検査法として利用できる。また応用として他の遺伝子産物の発現、他のウイルスの検出にも利用できる可能性がある。

#### 論文審査結果の要旨

本研究は、EBウイルス関連皮膚疾患の皮疹部におけるEBウイルス感染細胞の証明を非侵襲的に行う方法の開発を目指したものである。従来は診断確定には、*in situ hybridization*を用いるため、皮膚生検が必須であったが、小児例が多く、露出部に形成しやすいため施行できない例があった。今回皮疹部の痂皮よりRNAを抽出し、EBウイルス潜伏感染細胞に恒常的に発現しているEBER1とBARTsRNAをRT-PCR法で検出する方法を確立し、臨床検体を用いてその有用性を検討した。その結果、全例でRNAの抽出が可能であった。またEBウイルス関連皮膚疾患でEBER1とBARTsRNAが検出され、感度と特異性とも非常に優れていることが明らかになった。非侵襲的検査であることの利点を生かして、今後EBウイルス関連皮膚疾患を考えたときに最初に行うべき有用な検査法を確立したものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。